

歌壇

大下一真選

特選

七草の粥啜る朝路地裏に弾ける子等の声走りゆく

千駄木 上杉 紀世子

両の掌に包めるほどに生れし児がランドセル背負ひ春を待ちをり

本駒込 唐木 よし子

「お粥さん」 「お揚げさん」 など 「さん」 付けて今も直せぬ大阪訛り

小石川 中野 千鶴子

入選

断捨離はせつなきことば言わずとも愛しき人も思い出も消ゆ

千石 菊地 正矩

三日目の夜は重箱かたづけ年を越せたる幸せ思う

水道 高木 マリ

古き良き時代に姉は女学生遺しし千代紙栄太楼の缶

向丘 高野 伸子

年の瀬の雑踏抜けて見上ぐれば雲ひとつなき大き青空

水道 菅井 茂子

ああ歳だと呟きながら窓に寄り読書に倦みし眼を休めをり

千石 小出 風沙子

ひよつとこと両手を取りての初踊りこれは春から縁起がよろし

本郷 堺 公美

引き算のまだ解けぬ子が皮むいた芋で作った肉じゃがを食う

白山 菊田 知和

俳壇

佐怒賀 正美 選

特選

子を叱る声のあと葱刻む音

千石 竹居 陽一

失せ物を探しついでにの煤払

千石 大石 坦

名医かな診察室に初笑い

春日 二村 吉光

入選

霜柱うかつに踏みしかくれんぼ

向丘 丸岡 正児

冷まじや十万年の汚染処理

向丘 片岡 マサ

お姿をテレビに仰ぐ雑煮かな

千石 菊地 正矩

初稽古琴柱を立つる指美しき

白山 藤井 優子

仕舞風呂亡母の律義を去年今年

小日向 内野 仙也

かまきりを枯れ葉に乗せて追肥まく

向丘 高野 伸子

キッチンに溢れるレシピ冬ぬくし

千駄木 山田 鈴女